

4 立地適正化計画で目指すまちづくり

(1) 立地適正化計画で目指すまちづくりの考え方

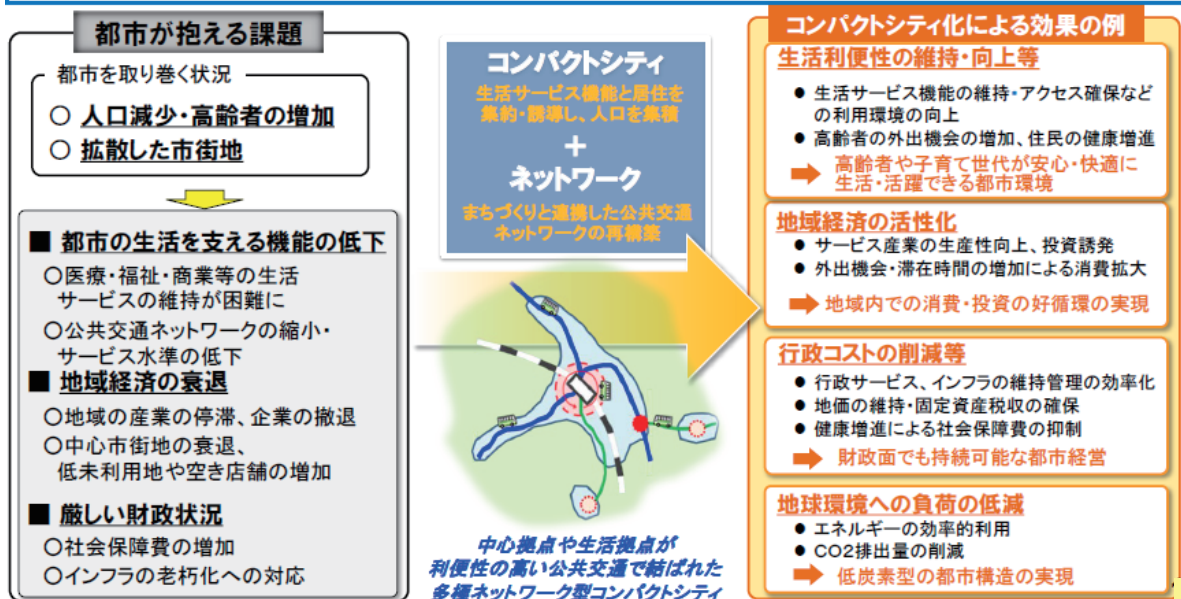
人口減少、少子高齢化の進行によるまちの魅力や活力の低下、各拠点に立地している多くの公共施設や道路などのインフラ施設の老朽化対策に伴う維持管理費の増加など、本市が抱える課題に対応するため、これからのまちづくりは、持続可能な集約型都市構造への転換を効率的・効果的に進めることが必要となります。

人口減少の中にあっても、中心拠点である一定のエリアにおいて人口密度を維持することで生活に必要なサービスが継続的に確保され、中心拠点に都市機能を誘導・維持することで活力を感じるコンパクトな市街地の形成、併せて学生や高齢者といった自動車を運転できない市民の移動手段を確保するための公共交通の充実・強化を図ることで、地域拠点においても生活利便性が確保され、市全体として持続的に発展するまちづくり「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」を目指します。

また、公共施設等の維持管理においては、これからの施設の在り方を総合的に考える公共施設マネジメントに取り組み、更新時期に併せ施設の長寿命化・集約化による適正管理に努めるとともに、ゼロカーボンシティの実現に向けて脱炭素化の取組を進め、次世代への負担とならない未来につなぐまちづくりを目指します。

《 コンパクトシティ・プラス・ネットワークの効果 》

○ 都市のコンパクト化は、縮退均衡を目指すものではなく、居住や都市機能の集積による「密度の経済」の発揮を通じて、
 ・ 生活サービス機能維持や住民の健康増進など、**生活利便性の維持・向上**
 ・ サービス産業の生産性向上による**地域経済の活性化**(地域の消費・投資の好循環の実現)
 ・ 行政サービスの効率化等による**行政コストの削減**
 などの**具体的な行政目的を実現するための有効な政策手段**。



出典：国土交通省

(2) 立地適正化計画で目指すまちづくりの方針

都市の課題や上位計画を踏まえ、立地適正化計画で目指すまちづくりの方向性を示します。

《 立地適正化計画のまちづくりのテーマ 》

コンパクトシティ・プラス・ネットワーク

- ・誰もが住みたい・住み続けたいと思えるコンパクトな中心市街地
- ・拠点間をネットワークで結ぶ市全体での持続可能なまちづくり



方針1 安心・快適に生活できるコンパクトなまちづくり

- ・居住を緩やかに誘導する区域を定め、人口減少の中にあっても、一定のエリアにおいて人口密度を維持することにより、地域コミュニティや生活サービス施設が継続的に確保され、子供から高齢者まですべての市民が安心して快適に生活できるコンパクトな中心市街地の形成を目指します。

方針2 魅力・賑わい・活力を感じる中心市街地の形成

- ・都市機能を誘導する区域を定め、医療・商業等の都市機能の立地を中心拠点に誘導・維持することにより、これらの各種サービスを効率的に提供し、魅力・賑わい・活力を感じる中心市街地の形成を目指します。

方針3 市全体が持続的に発展するネットワークづくり

- ・中心市街地を活性化することで、地域拠点と中心拠点との往来が増加し、拠点間の公共交通を維持・充実することにより、各地域拠点や地域コミュニティとのつながりが広がり、市全体として持続的に発展するまちづくりを目指します。